



## “よねやま”から広がる新しい世界 ①

# スリランカの学校に音楽隊を



松戸西R C  
(第 2790 地区 千葉県)

カウンセラー  
三浦 幹敏 さん

### 3人目の米山奨学生を迎えて

松戸西R Cが米山奨学生の世話クラブとなったのは、サジーさんで3人目だそうです。前回の受け入れから20年がたち、米山奨学生を直接知らない会員も多くなりました。私もその一人です。もちろん、カウンセラーになるのも初めてでした。クラブは会員数28人と小規模ながら、平均年齢は54歳と若く、和気あいあいとした雰囲気自慢です。サジーさんは、同期奨学生の中でもひととき日本語が達者で、その朗らかな性格からすぐにクラブになじんでくれました。

サジーさんが来て、スリランカの文化、内戦の歴史、教育事情……、たくさんのことを学びました。彼女は学業の傍ら、夫メルビン氏と一緒に「コスモス奨学金」という、スリランカの貧しい子どもを支援する里親制度の事務局を担っていて、地区内には彼女の卓話を聞いて里親になった会員がたくさんいます。サジーさん夫妻は、子どもたちから届いたお礼の手紙を日本語に翻訳し、輝く笑顔の写真を添えて、逐一報告してくれました。

### クラブに生まれた変化

彼女との交流から、クラブにも変化が生まれました。松戸西R Cがホストを務めたインターシティーミーティングを「米山記念奨学会を通してロータリーをさぐる」と題して開いたほか、クリスマス家族例会で寄付を募り、スリランカの学校に教科書を贈ったり、会員が手分けをして集めた文具を寄贈したりしました。個人でも、「新婚旅行で近くまで行くから」と文房具を届ける会員、不

用になったキーボードを寄贈する会員も出てきました。これまでも、クラブとして発展途上国の支援活動を実施したことはありますが、振り返ると、いま一つ思い入れがなかったように思います。しかし、サジーさんを介し、スリランカという国が身近な存在となりました。サジーさんが日本を愛する心が伝わり、私たちもスリランカを好きになりたいと思うようになりました。スリランカで婚活をしたいという若い会員もいるほどです(笑)。

そんな中、会員同士の会話から発展したのが、「スリランカ日本音楽交流プロジェクト」です。スリランカの学校では行事のたびに音楽隊が演奏をするようですが、肝心の楽器がない貧しい学校がたくさんあります。地域の拠点となる学校に楽器がそろえば、周辺の学校が借りることもでき、地域の祭りにも役立ちます。何より、音楽は心を癒やし、国や言葉を超えて人の心に響くものです。

メルビン氏の協力を得て、コロンボから車で5時間ほどの、内戦で被害を受けた貧しい地域の学校を選びました。この学校に音楽隊を作ろう！ 皆の思いが届き、今年度の地区補助金の対象事業に選ばれました。現地まで会員が出向き、使えそうな楽器の補修費用の見積もり、学校側の希望などを調査。来年2月のオープニングセレモニーには、家族も連れて皆でスリランカへ行くつもりです。今後も私たち松戸西R Cは、サジーさん一家との縁を大切にしていきたいと思っています。



壊れた楽器を手にするスリランカの少女

よねやまだよりでは、今月から新シリーズ「“よねやま”から広がる新しい世界」をスタートします。米山奨学生との出会いから、クラブ・個人として異文化への新たな発見や国際交流につながった体験談を、ロータリアンと奨学生双方の視点から語っていただきます。初回は、松戸西ロータリークラブ（RC）とスリランカ出身のサジーワニー・ディサーナーヤカ（サジー）さんです。松戸西RCはサジーさんの世話クラブとなったことをきっかけに、スリランカへの関心が高まり、今年度、楽器を贈る音楽交流プロジェクトを立ち上げました。



米山学友  
サジーワニー・ディサーナーヤカさん

出身：スリランカ  
奨学期間：2011 - 13  
学校名：千葉大学大学院

## 日本の支援に救われて

私は靴も買えないような貧しい家庭で育ちましたが、日本の里親制度のおかげで大学まで進学し、日本に留学することができました。同じく勉学を志し、先に来日していた夫が、私のために夢を諦め研究を支えてくれましたが、生活は非常に苦しいものでした。米山奨学金に合格した時には、思わず泣きました。世話クラブの皆さんは家族ぐるみで親しく付き合ってくれました。カウンセラーの三浦さんは私の卒業式や出産時にも駆けつけてくれ、本当の父のような存在です。

## 大切なのは教育

私は、国にとって最も大切なのは経済的發展ではなく、教育だと思っています。教育こそ、国民に真の心の幸せをもたらすものです。しかし、母国では2009年に内戦が終わったばかりで、特に地方の学校では図書室

に本がなく、音楽室には壊れた楽器しかないような状態です。私のように村を出て、さらに留学できる子はまれです。私たち夫婦は一人でも多くの子どもの海外で学ぶ機会を与え、視野を広げてほしいと願っています。そうすれば、世界は必ず平和になると思うのです。

私の話を聞いて、スリランカの子どもを支援したい、という申し出をたくさんいただきました。世話クラブ以外にも多くの皆さんから支援を受け、母国の子どもたちが学ぶチャンスを得ています。私たちは決して「もらって当然」とは思っていません。支援者の方たちにとって、経済的に余裕があつての寄付金だとしても、その方の人生にも苦しい時期があつたであろうと、常に心の中に刻んでおかねばならないと思っています。そして、私たちを信頼し、大切なお金を出していただいた責任を、果たさねばならないと思っています。

今はまだ、博士号取得を目指して勉強中ですが、いつか母国に戻っても、日本の皆さんとの友情は一切切れることはない、と約束します。

## ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または“よねやまだより”についてのご意見を、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。

Tel. 03-3434-8681 Fax. 03-3578-8281

Eメール：mail@rotary-yoneyama.or.jp



## モンゴルに米山学友が創立した大学・高専が開校

9月15日、モンゴルの首都ウランバートルで新モンゴル工科大学と新モンゴル高等専門学校（高専）の開校式が開かれました。両校は、日本の教育モデルを参考に「新モンゴル学園」を創立した米山学友ジャンチブ・ガルバドラッハさんが、母国の発展に有用な人材を育てたいと新設したものです。開校式には、モンゴルの教育科学大臣や駐モンゴル日本大使ほか、多くのゲストが駆けつけました。高専の校長に就任した、新モンゴル学園出身の米山学友シルネン・ブヤンジャルガルさん（2010 - 11 / 成田RC）は「世界中の技術者と肩を並べて働き、国づくりを担う実践的な技術者を輩出したい」と抱負を語りました。



開校式でのジャンチブさん（左から3人目）とシルネンさん（左端）